

愛知県（林業従事者向けの研修について）

- 愛知県では、充実した森林資源の循環型利用のため、県内の森林整備を担う林業従事者の確保・育成が求められています。
- このため、県は、充実した森林資源を生かす循環型林業を推進し、安全かつ安心して働くことのできる魅力ある林業の実現を目指すため、2023年度には、森林・林業研修として行っていた講座を体系化し、キャリアアップに応じて必要な技術を習得できるコースとして再編成した「あいち林業技術強化カレッジ」をオープンしました。
- 2024年度3月には、雨天時や酷暑時においても実技研修が実施可能な全天候型研修施設を整備しました。

□ 事業内容

・経験に応じた3コースの研修により、林業従事者の技術力の強化を図る。

・令和元年度は伐倒練習機、令和5年度はキックバック体験装置を導入し、令和6年度は全天候型研修施設を整備した。今後も、研修体制の一層の強化を図る。

○人材育成事業費

【事業費】98,344千円（うち全額譲与税）

【実績】林業従事者向け研修 実施日数 70日
出席者(延) 470名



（伐倒技術指導者育成研修）



（全天候型研修施設）

| | | 林業就業後 | | |
|-----------|---|---|---|---|
| | | 基礎コース | 中堅コース | 指導者コース |
| 林業体験等 | | | | |
| 目標 | 林業に対する理解促進 林業の担い手確保 | 安全な伐木技術習得 | 高度な伐木技術習得 木材生産技術習得 | 組織、現場指導者育成 |
| 対象 | 未経験者 | 1～3年目の新規就業者 | 4～10年目の中堅技術者 | 10年目以上の指導者 |
| 研修等 内容 | 高校生の林業体験や林業に興味を持つ者への林業体験研修の他、インターンシップ等を支援 | 就業初期段階で労働安全を徹底するとともに、安全な伐木技術や、林業に関する基礎知識、資格等を習得 | 枯損木やかかり木等の処理に必要な高度な技術の習得や、現場管理に必要な知識や技術、資格を習得 | 経営の視点、現場の統括、労働安全指導、より高度な技術、組織内外でのコミュニケーション能力の向上 |

「あいち林業技術強化カレッジ」における研修体系

□ 工夫・留意した点

- ・森林・林業研修を経験年数に応じた、3コースに分類することにより、キャリアアップ過程の見える化を図る。
- ・天候に左右されず計画的な研修を実施することで、人材育成を図り、市町村が行う森林整備等の支援を行う。

◇ 基礎データ

| | |
|---------------------|-------------------------|
| ①令和6年度譲与額：175,787千円 | ②私有林人工林面積（※1）：112,747ha |
| ③人口（※2）：7,542,415人 | ④林業就業者数（※2）：691人 |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

- 愛知県では木材利用を促進するため、木材利用の普及啓発を目的としたイベントを都市部において開催するとともに、木造・木質化を担う人材の育成にも取り組んでいる。
- 令和6年度は建築を志す学生を対象に、木材に関心を持ち、将来的に木造・木質化に携わる人材となることを期待し、木造建築設計コンペティション「AICHI WOODY AWARD 2024」を実施した。

□ 事業内容

- ・「行くたびに心惹かれるオフィス・商業施設」をテーマに、県内に在住または在学の学生を対象に作品を募集。
- ・全20作品の応募があり、うち8作品を入賞作品として選定し、最終審査会において提案者からのプレゼンテーションを踏まえて最優秀賞等を決定した。
- ・審査は審査委員長に国内外で活躍する建築家の手塚由比氏（株式会社手塚建築研究所 代表）を迎え実施した。

【事業費】 3,303 千円（うち全額譲与税）

□ 工夫・留意した点

- ・最終審査会では、手塚氏による講演や、業界の第一線で活躍する審査委員と学生との交流会を併せて実施し、学生が木造建築に取り組む機運をさらに高めた。
- ・入賞作品は木材普及啓発イベントで紹介するとともに、作品集として取りまとめて現役建築士等に配布するなど、木造建築の機運醸成にも活用した。

□ 取組の効果

- ・将来、建築業界を担う学生に対して、木造建築へ触れる機会を提供することができた。
- ・学生のアディアを建築に携わる人々へ共有することで、都市の木造・木質化の推進を高めることができた。



提案者プレゼン



最終審査状況



最優秀賞受賞作品

◇ 基礎データ

| | |
|---------------------|-------------------------|
| ①令和6年度譲与額：175,787千円 | ②私有林人工林面積（※1）：112,747ha |
| ③人口（※2）：7,542,415人 | ④林業就業者数（※2）：691人 |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

- ▶ 豊富な森林資源を持つ愛知県東三河地域において、スマート林業の普及啓発や県産木材利用の促進に取り組む。
- ▶ 令和6年度は林業の省力化に向けた大型ドローンによる苗木等の運搬実証を実施するとともに、東三河地域で生産された木材製品を展示する場を設け、木材利用に係る企業間交流及び木材利用のPRの場を創出するためのイベントを開催した。

□ 事業内容

令和6年度 東三河森林資源活用事業

地域の豊富な森林資源を活用し、林業の成長産業化を目的として以下のイベント等を開催した。

- ・市町村でドローンによる苗木運搬等見学会【開催】
- ・木質体感ショールーム【設置】
- ・木材利用イベント【開催】

【事業費】20,602千円(内10,999千円譲与税)

【実績】ドローン見学会2回 参加者数37名

ショールーム4箇所 累計116日間設置

イベント2回 参加者数 延べ5,200名

□ 工夫・留意した点

- ・苗木運搬見学会は、一般の方向けと林業経営体向けの2回を開催。また、イベントは、木材利用のPRを主とした「ウッドワンダーランド」、企業間交流を主とした「ウッドコレクション」の2回を開催。
- ・目的に応じて内容を工夫し、幅広く普及啓発をおこなった。

□ 取組の効果

- ・東三河地域の森林・林業・木材利用について幅広くPRするとともに、企業間交流を促進し、林業・木材産業の振興をはかった。



ドローンの活用実証



木質体感ショールームの設置



ウッドワンダーランドin東三河



ウッドコレクションin東三河

◇ 基礎データ

| | |
|---------------------|-------------------------|
| ①令和6年度譲与額：175,787千円 | ②私有林人工林面積（※1）：112,747ha |
| ③人口（※2）：7,542,415人 | ④林業就業者数（※2）：691人 |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より